



佐久市立望月小学校
学校だより



令和4年(2022年)

9月26日(月)

(担当：校長)

校長講話の感想紹介

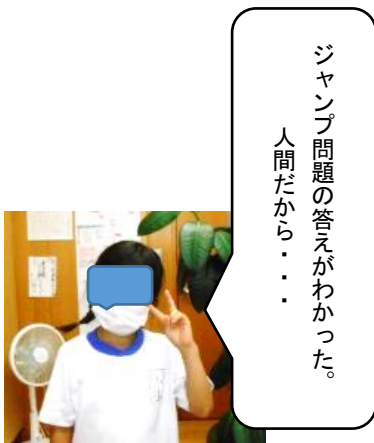
9月7日(水)の校長講話は「人の思いを考える」というテーマで、夏休みの作品紹介や学校生活の様子、そして「ジャンプ問題」などをスライドを作って話しました。その感想を紹介します。

子どもたちに、よく聴き・考え・表現する力が育っていることを感じます。

「ジャンプ問題」とは

子どもたちが身につけた知識・技能をフルに活用して考え、友だちと協働して学びを深めることをねらいにした問題です。

★ジャンプ問題の答えを言いに来た1年生のmさん★

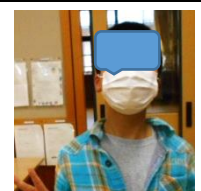


★フォームに寄せられた感想や答え★

ジャンプ問題の答えは、**自分を新しくすること**だと思います。緊張することは、何かを自分を苦しめているから、またそれに勝つために**自分が挑戦して、また自分が新しいことに挑戦**できるから。

そして新しいことが身につくから。

(4年：yさん)



→ 緊張の原因を考え、それに挑戦することで「自分を新しくする」という前向きな意欲が感じられていいですね。

自分の思っている事を人の前で発表するから、それを**まちがえてしまった時にわらわれてしまう**など**思ってしまふし、自分だけちがう意見だったらどうしよう**など**考えてしまう**から緊張してしまうと思います。

校長先生お話ありがとうございます。

(4年：yさん)



→ 自分の経験を振り返り、どんなときに緊張するかを具体的に考えているところがいいですね。

校長先生、毎回ステキなお話ありがとうございます!!

私は人が緊張するのは、

自分が取り組んでいるものをより良くしたいと思うから

だと思います。

(5年：Aさん)



→ 「緊張するのは自分が取り組んでいるものをよりよくしたいから」という向上心がいいですね。

お知らせ

日記を100日
書いた人には
がんばり賞
として賞状を
わたします。

書くことは苦しい。
苦しいことに
挑戦できる人に



私も「記録が大事だな」と思いました。その日にあった悲しいことや嬉しいことを**記録**することで「こんな日あったんだ」とかその日のことが**振り返られるからいい**と思いました。

地震や災害も「どうしてこうなっちゃったんだろう」「どうしたらこうならないかな」と考えると**新たなステップ**になるからです。

・手が震えるのは「失敗したらどうしよう」と不安があるからだと思いました。**リラックスしながらやると楽しくできる**と思います。



・緊張するときは、誰かに見られたりしているときです。頭の中がゴチャゴチャしちゃうからです。
(5年：sさん)

→ 記録する（書く）ことの大切さを感じていることや失敗への不安を打ち消す方法を考えているところがいいですね。

緊張するときは、初めてのことをやる時など不安で緊張します。

校長先生が提案した 日記100日頑張り賞 がいいと思いました。それをやることで毎日日記を書いて**いつか自分たちから書きたいと思えるようになる**と思います。日記は、その日あったこと、楽しかったことなどを書くので**自分が楽しいと思えることをみつけて、毎日が楽しく過ごせるようになる**と思います。いい案だと思いました。

(6年：hさん)



→ 提案を素直に受け止め、日記のよさを自分なりに考え、実行しようとしているところがいいですね。

校長講話いつもありがとうございます。

僕は、今日の校長講話のジャンプ問題の「人はどうして緊張するか」について僕は、こう思います。**緊張することは、自分が成長するチャンス**だと僕は、思います。

理由は、緊張することが二つあって、その一つのなれてない人と話すということが僕は、とっても苦手です。毎回話す時とかに声が小さくなったりして緊張してしまいました。でもその**緊張を乗り越えることで声がかげられたいしてもあまり声が小さくならなくなりました**。だから緊張は、成長するということだと思えます。

(6年：rさん)



→ 自分が緊張を乗り越えた経験から「緊張することは自分が成長するチャンス」と考えたところがいいですね。

僕が思うジャンプ問題の答えは、「ドキドキしてしまうから」「どう思われているか心配になってしまうから」だと思います。校長講話お疲れさまです。僕が特に関心を持ったのは、夏休みの工作の事です。理由は、**みんな人それぞれの個性、性格、豊かさ**があって工作は「**自己開示**」になるんだなあと思ったからです。

わからなくても相手の伝えたいことは何か考えることが大切。



わからないことも「豊かさ」

ジェームズ先生と英語で会話

そして僕が初めて知れたのは、「分からない」は「豊かさ」ということです。なんでかという、いつも「**分からない**」は「**恥**」だ**と思っていた**からです。

でも今回の校長講話で「『分からない』は『恥』ではなく『分からない』は『豊かさ』」ということが知れました。校長先生ありがとうございました。

(6年：kさん)



→ 夏休みの作品から「**みんな人それぞれの個性、性格、豊かさ**があって工作は「**自己開示**」になるんだなあ」と考えたところや「わからないことも豊かさ」と新たに気づいたところがいいですね。

令和2年度から新しい学習指導要領が実施され、5,6年生は週2時間、教科として「外国語」を学ぶようになりました。外国語としては大多数の学校が「英語」を学んでいるのですが、この英語については大きな課題があります。それは、子どもたちにアンケートをとると、「好き」と答える人が5年生だと8割を超えますが、6年生になると5割くらいになってしまうことです。この傾向は中学校で初めて英語を学んでいた時代にもあり、中1では多くの人が「好き」だったのに中2では「嫌い」になってしまうのです。その理由の一つは「わからない」ことにあります。ですから、学校では「わかる」授業を目指して日々取り組んでいます。しかし、「わからない」ことで学びをあきらめない子どもたちにもなってほしい、学ぶことが大好きな子どもたちにもなってほしい・・・そんな思いで「わからないことも豊かさ」と校長講話で伝えました。